

## ドングリ山の やまんばあさん



トミヤス

富安陽子 作  
大島妙子 絵  
理論社

ドングリ山のてっぺんに住むやまんばあさんは、296歳。オリンピック選手よりも元気で、プロレスラーよりも力持ちです。そんなやまんばあさんが、川に流されたタヌキを助けたり、人間の町にやってきて車と競走したり……そのじまんの体力で大暴れ。そのたびに思わず笑ってしまうさわぎが起こります。やまんばあさんの活やくをごらんあれ。

## 長い長いお医者さんの話



チャバツク

カレル・チャバツク 作  
中野好夫 訳  
岩波書店

みんなからきらわれている魔法つかいは、ある日ウメの実をのどにつまらせてしまいます。さあ大変。弟子は、大急ぎでお医者さんをよびました。お医者さんは、魔法使いの病気を「急性ウメタネマク気管支カタル」と診断して、手術をはじめました。『長い長いお医者さんの話』のほかに、親切な郵便屋さんがあて名のないラブレターの届け先をさがす『郵便屋さんの話』など、ユーモアたっぷりの9つのお話を楽しめます。

## 長くつ下のピッピ



リントクレ

リンドグリーン 作  
大塚勇三 訳  
岩波書店

ピッピは世界一つよい女の子。お母さんもお父さんもないピッピは、サル、ニルソン氏と馬といっしょに、ごたごた荘でくらしています。学校には行きません。お行ぎは悪いし、たし算もできません。でもピッピにとっては、そんなことはどうでもいいのです。おまわりさんとおにごっこをしたり、サーカスで大男をたおしたり……。次々とゆがいた事件をひきおこすピッピの物語、第1作目です。

## のんきなリゅう



クレアム

ケネス・クレアム 作  
インガム・ア 絵  
中川千尋 訳  
徳間書店

むかしむかし、もしかしたらなん百年もむかし、ひつじかいとおかみさんと、小さな男の子がいました。ある日、男の子はリゅうとであいます。このリゅう、見かけはおそろしいけれど、詩がすきでとてもなまめもの。男の子とリゅうは、すっかり仲よくなります。しかし、村人たちはリゅう退治の騎士・聖ジョージを呼びよせて、リゅうを退治しようします。男の子のおかげで、聖ジョージはリゅうが悪者ではないと知りますが、たたかいはさげられません。

## ながいながいペンギンの話



イヌイ

いぬいとみこ 作  
山田三郎 絵  
理論社



南極の島のうみべに、ひどいゆきあらしがあれくるうなか、ふたつのたまごがかえりました。ふたごのペンギンは、生まれたばかりだというのに元気いっぱい。こわいものしらすのルルと、おくびょうだけどころやさしいキキ。ある日ルルは、おとうさんとおかあさんがうみへ出かけたあいだに、こっそりうちをぬげだしてしまいました。ぼうけんずきのあいらいしきょうだいが、こおりとうみがひろがる白い世界で、たくましく成長します。

## バレエをおどりたかった馬



ストルテン

H・ストルテンベルグ 作  
菱木晃子 訳  
さとうあや 絵  
福音館書店

のどかないなかにすむ馬は、さんぼのとちゅうで旅のバレエ団にであいます。駅まででないしたお礼に、バレエを見せてもらいました。生まれてはじめてバレエを見た馬は、すっかり夢中。「バレエをおどりたい！バレエダンサーになりたい！」そう考えた馬は、町へ行くことに決めました。そして、町のバレエ学校に入って、レッスンにはげむのです。親切な大家さんや、すてきな友だちにもめぐまれましたが、馬がバレエダンサーになてなれるのでしょうか。

## 火のくつと風のサンダル



ウエルフェ

ウルズラ＝ウエルフェル 作  
関橋生 訳  
童話館出版

くつ屋のチムは、組1ばんのでぶで、学校1ばんのちび。みんながチムをからかいます。「ほくが、チムでなくなりゃいいんだ。」それを聞いたおとうさんとおかあさんは、チムに赤いくつと旅行をプレゼントします。そして夏休み、チムは「火のくつ」、お父さんは「風のサンダル」という新しい名前になって、むねをはげませ出しました。旅から帰ってきたチムは、どうなっているのでしょうか。